

1 単元名 「ごんぎつね新聞」をつくろう 『ごんぎつね』(光村図書 4年下)

- 教材名ではない
- 活動目標になるように 例 「スイミー」→「音読劇をしよう」
- なりたい自分を意識して 例 「目指せ！ことわざ博士」
- テーマを意識して 例 「平和について考えよう」
- 子供にとって、魅力的なネーミングに 子供が「今、していることが分かる」ように

2 単元設定の理由

本学級の子供たちは、前単元において、教科書教材「白いぼうし」で「松井さんをしょうかいしよう」というめあてのもと、登場人物の会話や行動、様子から性格や心情を読み取る学習に取り組んできた。その中で、言葉に着目しながら、松井さんの人物像について自分の考えをもち、別の物語に登場する松井さんの人物像と重ね合わせ、解釈を深める姿が見られた。しかし、その解釈をもとに、自分の感想や考えをまとめることに課題が残った。

本単元は、・・・

本単元で育成したい資質・能力を明確にし、次の内容を記述する。

- 1 子供の実態
 - ・これまでの学習を通して、身に付けてきたことやより身に付ける必要を感じた実態。
 - ・この資質・能力が付くことにより期待できる子供の言語生活の変容。
- 2 単元観
 - ・教材の内容分析や他単元の学習内容との関連、それらを踏まえた本単元のねらい。
 - ・付けたい資質・能力に適した言語活動を位置付け、その理由を述べる。
(内容、テーマ、表現の特徴、使用語句、難易度、子供の興味・関心 等)
 - ・複数の教材を使用する場合には、その教材についてもふれておく。
- 3 本単元の構想と展開
 - ・単元の展開(流れ)、単元のゴール、特に重点を置く段階等を述べる。第一次は～。第二次は～。
 - ・付けたい資質・能力を育成するための具体的な指導上の工夫(学習形態、手引き、板書、ノート、教師の作成物、言語環境等)等において特徴的なものを述べる。

3 単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕(1)オ

- (2) 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ

- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

※小学校学習指導要領解説国語編 P.14 の「2 学年の目標」の記述を用いて作成する。

- ※学習指導要領の各指導事項の一文全部或いはその一部を使って作成してもよい。
- 〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕 文末表現「～することができる」
- 「学びに向かう力、人間性等」 文末表現「～伝え合おうとする」

4 単元で取り上げる言語活動

物語を読んで、理解したことに基づいて、感じたことや考えたことを新聞にまとめる。
(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ)

※単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置づける。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ)	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。
※文末は「～している。」	※文末は「～している。」	※文末は「～しようとしている。」

- ※〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の観点
- ・単元の目標の〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕に関する記述を使う。
 - ・〔思考力、判断力、表現力等〕は、文頭に領域名を書く。
(「話すこと・聞くこと」において、…／「書くこと」において、…／「読むこと」において、…)
- ※〔主体的に学習に取り組む態度〕の観点
- ①粘り強さの側面(積極的に、進んで、粘り強く 等)
 - ②自らの学習を調整する側面(学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして 等)
 - ③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
 - ④単元の主となり、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動
- これらの①～④の要素が必要であり、①⇒③⇒②⇒④の順に、一文にする。

6 指導と評価の計画(全9時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
	○学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。	・学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しがもてるようにする。	

1 ・ 2 ・ 3	○「ごんぎつね」を読み、内容の大体を捉える。 ○初発の感想を書き、読み合う。 ○学習課題を確認する。 ごんの思いは兵十に伝わったのかについて、読んだことを基に、感じたことや考えたことを新聞にまとめよう。	・登場人物、主な出来事、結末などを捉えながら読むようにする。 ・場面の様子、登場人物の言動や様子などを表す語句に着目して読むようにする。 ・必要に応じて辞書を活用できるようにする。 ・心に強く残ったこと、疑問に思ったことなどについて書くことができるようにする。 ・初発の感想のうち、多かった感想や疑問、学級全体で話し合いたいことなどを適宜取り上げていくようにする。	〔知識・技能①〕 ワークシート ・場面の様子や登場人物の言動、様子などを表す語句について着目し、語彙を豊かにしているかの確認
4 ・ 5 ・ 6 本時 ・ 7	○ごんや兵十の気持ちが大きく変化した場面はどこかについて考えをまとめる。 【場面の移り変わり】 ①ごんがいたずらばかりする場面 ↓ ②ごんがいたずらを後悔する場面 ↓ ③ごんがつぐないを始める場面 ↓ ④ごんが兵十と加助の後をついていく場面 ↓ ⑤ごんが兵十と加助の話をこっそり聞いている場面 ↓ ⑥ごんが兵十にうたれてしまう場面 ※□ は、取り上げる二つの場面 ○うなぎのいたずらへのつぐないを始める場面のごんと兵十の様子や行動、気持ちを想像する。(③の場面)	・物語全体の場面の移り変わりを確認した上で、ごんと兵十のお互いに対する見方や行動が大きく動いた場面として、「ごんがつぐないを始める場面」(③の場面)と、「ごんが兵十にうたれてしまう場面」(⑥の場面)を取り上げる。 ・ごんと兵十の気持ちとその根拠となった言葉や文をまとめるようにする。 ・表情やしぐさなどを想像しながら読むようにする。	〔思考・判断・表現①〕 書き込みシート ・ごんと兵十の様子や行動、気持ちの変化について想像しているかの確認

	○ごんが兵十に撃たれてしまう場面のごんと兵十の気持ちの変化を考える。(⑥の場面) ○学習課題に示された、ごんの思いが兵十に伝わったかどうかについて、友達と考えを交流する。	・行動や会話、場面の状況を表す言葉などに着目することができるようにする。 ・③や⑥の場面におけるタブレット上の書き込みシートを基にして考えをまとめるようにする。 ・友達の意見で参考になったことを適宜タブレットの付箋機能を使ってまとめるようにする。	[主体的に学習に取り組む態度①] 書き込みシート・観察 ・ごんや兵十の気持ちの変化について場面の移り変わり結び付けて自分の考えをまとめようとしているかの確認
8・9	○初発の感想を振り返りながら、物語を読んだことに基づいて感じたことや考えたことを新聞にまとめる。	・これまでの学習を振り返り、物語を読んで、理解したことに基づいて、感じたことや考えたことをまとめるようにする。 ・初発の感想を振り返り、どのように自分の考えが変わったのかを書くようにする。	[思考・判断・表現②] 新聞 ・文章を読んで理解したことに基づいて、既習内容と結び付けて自分の感想や考えを記述しているかの確認

7 本時の学習

(1) 目標

ごんと兵十の様子や行動について叙述を基に捉え、気持ちを想像し、気持ちの変化を考えることができる。

- ・本時の具体的目標を、子供の行動目標で書く。
- ・「単元の目標」「具体の評価規準」との整合性を図ること。
- ・文末は「～することができる。」

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。 ※活動やめあてについて記す。	1 前時の学習で書き込みシートや振り返りカードに記入した内容を読み返し、本時のめあてを確認できるようにする。また、物語のクライマックスであることを知らせ、学習に対する意欲を高める。	
⑥の場面を読み、ごんと兵十の気持ちを読み取ろう。		
2 ごんが栗を持って兵十の家を訪れた場面の行動や、それを見付けた兵十の行動が書かれた叙述を基に、ごんと兵十の気持ち	2 行動や会話、場面の状況を表す言葉に着目するよう促すことにより、ごんや兵十の気持ちを想像することができるようにする。 ○タブレットの書き込みシートを用い	[思考・判断・表現①] 書き込みシート ・ごんと兵十の様子や行動について叙述を基に、気持ちの変化につ

ちを考える。	て、気持ちが分かるところに線を引いたり、自分の考えや感想に取り入れられそうな部分を囲ったりできるようにする。	いて考えている。
3 んと兵十の気持ちの変化について、考えたことを友達と伝え合う。	3 友達と考えを伝え合うときのポイントを伝えることで、友達と自分の感じ方や考え方の共通点や違いを捉えることができるようにする。	
4 本時の学習を振り返り、振り返りカードに記入する。	4 振り返りの手引きを参考にして、自分の考えを書くことができるようにする。 ○友達と伝え合った中で、自分の考えを見つめ直し、考えが変わったところやより考えが深まったことを書くことができるようにする。	
〔子供の立場で書く〕	〔指導者の立場で書く〕	

※学習活動・予定している学習活動を順に書くのではなく、子供の思考・意識の流れを考えて組み立てる。

・「めあてをつかむ活動」と「振り返りの活動」を位置づける。

※指導上の留意点・活動に対して中心となる指導・支援を記す。

・具体的な手立て等を記す。例：～することで、～できるようにする。

※具体の評価規準・評価の方法と、単元の評価規準を踏まえた「B と判断する状況」（具体的な子供の姿）を記述する。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	んと兵十の両方の気持ちの変化を、それぞれの行動と結び付けて想像し、友達と伝え合いながら自分の考えを深めている。 ※「おおむね満足できる」状況（B）を実現した子供が、さらに質的な深まりや高まりをもっている姿（A）を具体的に想定して記述する。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	言葉の意味を説明したり、教科書の挿絵を参考にしたりしながら、場面の様子をイメージできるようにする。 んや兵十の気持ちが想像できる叙述を取り上げて、そのときの気持ちをいっしょに考える。 ※指導の手立てを具体的に想定して、記述する。

※『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を基に作成をしています。

国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>